



干潟の再生効果（三河港）

調査結果概要(平成12年8月)

周辺に比べて生物
が多くなっています

主な出現種類	造成干潟	周辺
アサリ	12	0
バカガイ	83	0
ゴカイ類	74	5
種類数	33	5
個体数	269	6

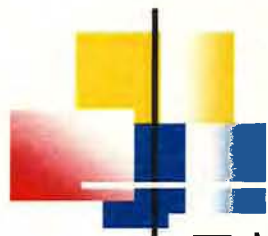


バカガイ



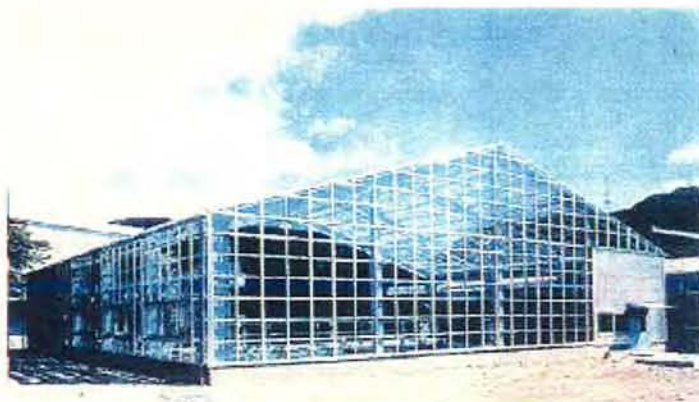
イシガニ

※本結果は0.15㎡当たりの個体数を調べたものである。
また、造成干潟は7カ所、周辺区域は3カ所の平均値である。



関係機関の取り組み

国土技術政策総合研究所・(独)港湾空港技術研究所(旧港湾技術研究所)の取り組み

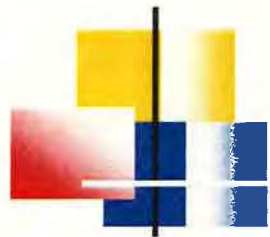


干潟実験施設



現地観測

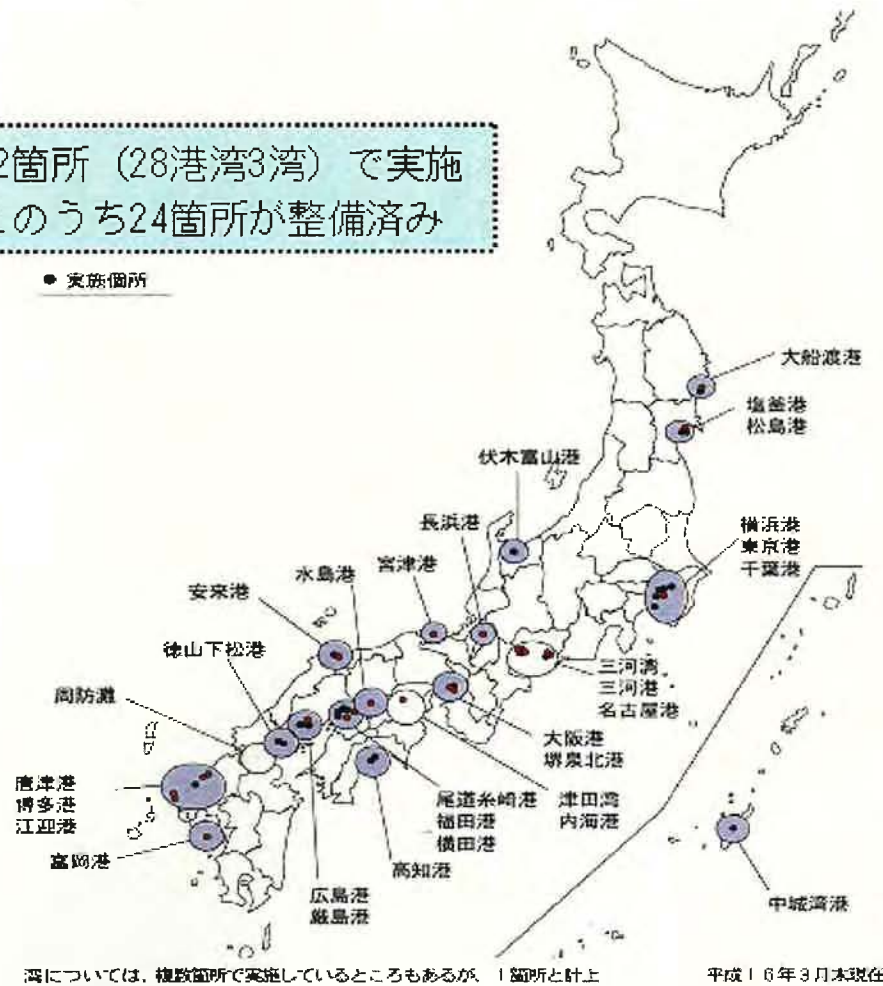
- ・干潟の造成には、波、潮流等に関する海岸工学の知見が必須。併せて生態学の知見も必要
- ・約20年程度前から干潟、藻場等の再生について研究を継続
- ・平成6年には世界最大規模の干潟実験施設が完成
- ・これらの研究・実績を活用しながら、各地での干潟をはじめとする環境と共生する港湾づくりを推進。



沿岸域における主要な干潟・藻場等の 保全・再生・創造

52箇所（28港湾3湾）で実施
このうち24箇所が整備済み

● 実施箇所



主要な干潟・藻場等の保全・再生事業実施位置

【干潟】

- ・平成14年度までに約1,200haを整備している。
（平成6年度以降に約500haが整備された。）



干潟(覆砂)の整備面積の推移(~平成14年度)

資料:国土交通省港湾局調べ(海域環境情報提供システム)

【藻場】

- ・平成14年度までに3港湾(5箇所)で約4.2haを整備